

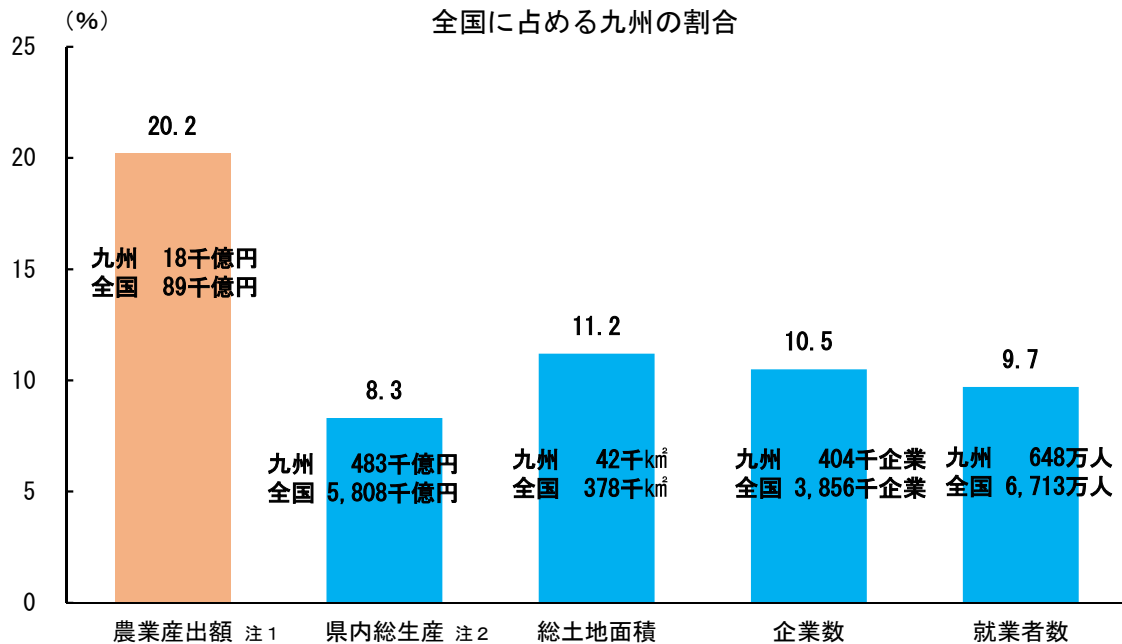
第2章 統計から見たい

構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

また、県民経済計算(県内総生産)の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であることが分かります。

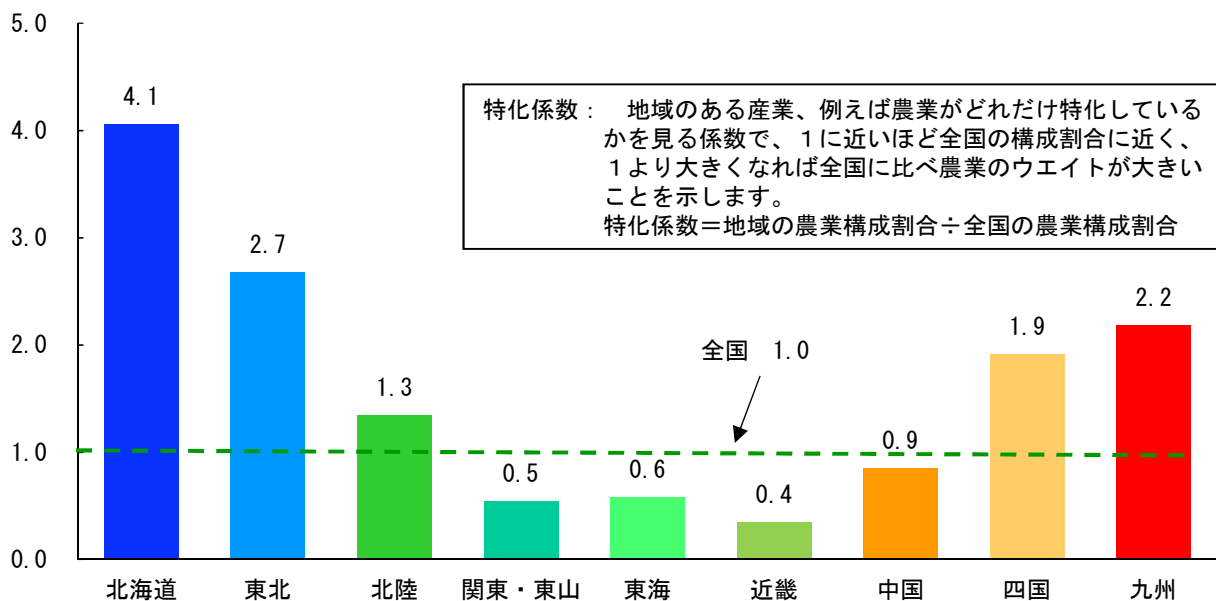


資料：農林水産省「令和3年生産農業所得統計」、内閣府「令和元年県民経済計算」
 国土地理院「令和4年都道府県市町村別面積調」、総務省「平成28年経済センサス活動調査」
 総務省統計局「令和4年労働力調査」

注：1 農業産出額は、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格（消費税を含む。）を乗じて求めたもの。なお、農業産出額の全国は都道府県計。

2 県内総生産の全国は全県計（都道府県計）。

県民経済計算からみた農業の特化係数



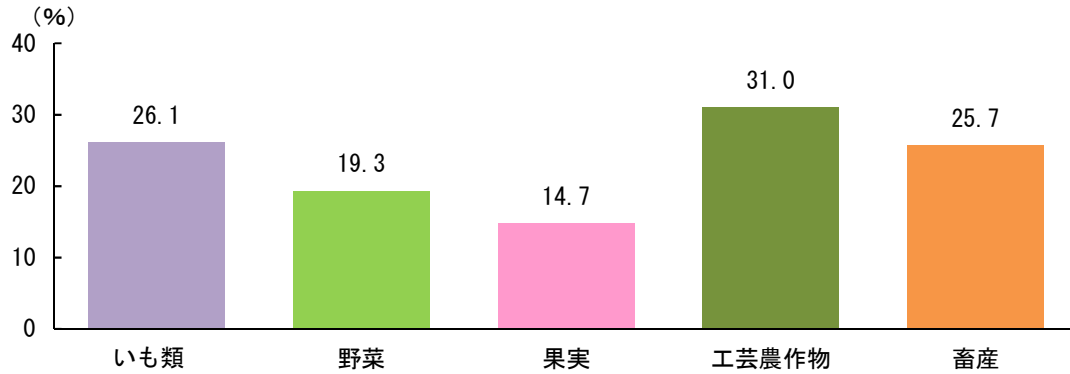
資料：内閣府「令和元年県民経済計算」

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

九州の部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、いも類、工芸農作物、畜産では約3割、野菜では約2割を占めています。

また、みかんやしらぬい（デコポン）など果実の生産も盛んです。

部門別農業産出額の全国に占める九州の割合



主な品目別農業産出額の全国に占める九州の割合

単位：億円、%

部門	品目名	農業産出額 (全国)	農業産出額 (九州)	全国 シェア	九州における1位		
					県名	農業 産出額	全国 シェア
いも類	ばれいしょ	1,369	374	27.3	鹿児島	184	13.4
	かんしょ	994	241	24.2	鹿児島	118	11.9
野菜	ピーマン	517	204	39.5	宮崎	110	21.3
	いちご	1,834	654	35.7	福岡	218	11.9
	トマト	2,182	571	26.2	熊本	362	16.6
	きゅうり	1,255	305	24.3	宮崎	167	13.3
	すいか	627	152	24.2	熊本	119	19.0
	なす	822	192	23.4	熊本	99	12.0
	メロン	647	142	21.9	熊本	115	17.8
	しらぬい（デコポン）	169	119	70.4	熊本	84	49.7
果実	マンゴー	70	46	65.7	宮崎	38	54.3
	なつみかん	48	31	64.6	鹿児島	20	41.7
	みかん	1,651	567	34.3	熊本	169	10.2
	キウイフルーツ	88	25	28.4	福岡	19	21.6
	葉たばこ	300	149	49.7	熊本	58	19.3
工芸農作物	茶（生葉）	495	219	44.2	鹿児島	152	30.7
	さとうきび	327	130	39.8	鹿児島	130	39.8
畜産	ブロイラー	3,740	1,833	49.0	宮崎	739	19.8
	肉用牛	7,662	3,169	41.4	鹿児島	1,240	16.2
	豚	6,445	2,008	31.2	鹿児島	900	14.0

資料：農林水産省「令和3年生産農業所得統計」

構造 — 農業産出額 —

【農業産出額は前年よりやや増加】

令和3（2021）年の九州の農業産出額は1兆7,905億円で、主食用米の相対取引価格の低下及び野菜における多くの品目で価格の低下がみられたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた前年から肉用牛や鶏の需要が回復し、価格が上昇したこと等から、昨年と比べやや増加しています。

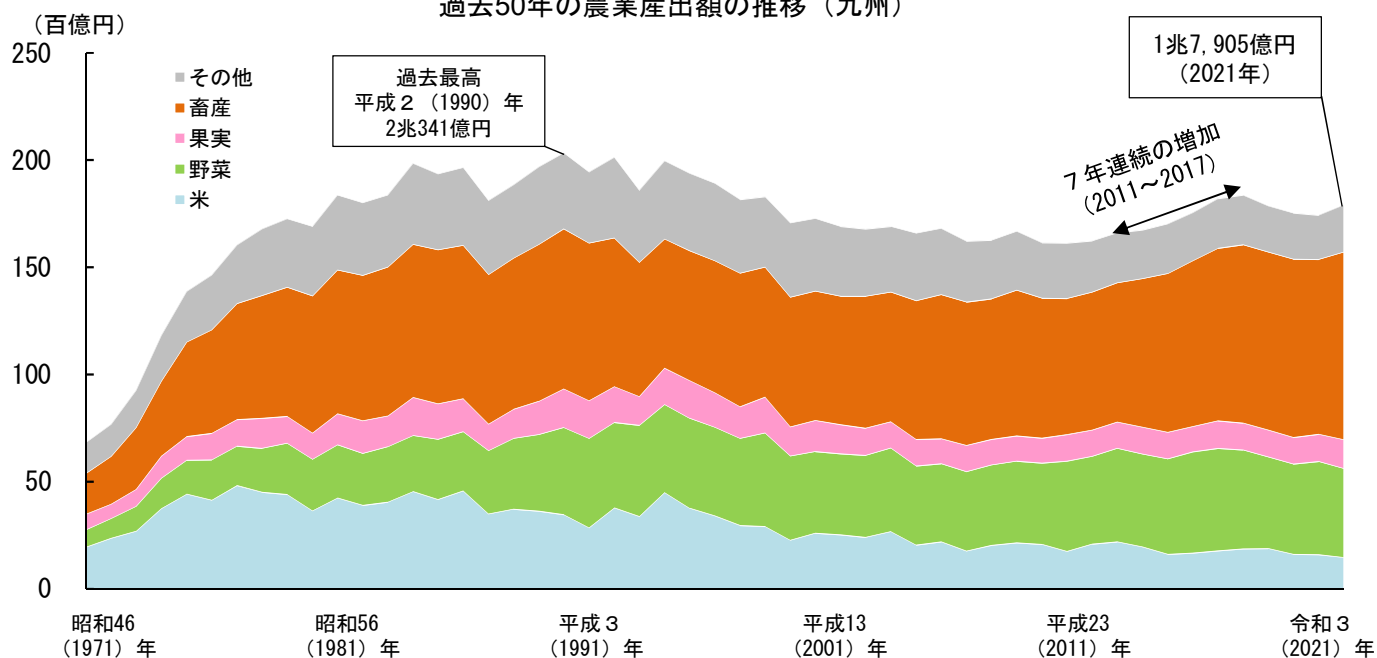
過去50年の農業産出額をみると、平成2（1990）年をピークに減少傾向で推移していたものの、平成23（2011）年以降は7年連続で増加しました。その後、平成30（2018）年以降は減少傾向で推移していましたが、令和3（2021）年は増加に転じています。

農業産出額（九州）

区分	令和2（2020）年		令和3（2021）年		対前年 増減率 （％）
	実額（億円）	構成割合（％）	実額（億円）	構成割合（％）	
農業産出額	17,422	100.0	17,905	100.0	2.8
耕種計	9,123	52.4	8,982	50.2	▲ 1.5
うち 米	1,603	9.2	1,469	8.2	▲ 8.4
麦類	62	0.4	75	0.4	21.0
豆類	52	0.3	36	0.2	▲ 30.8
いも類	597	3.4	616	3.4	3.2
野菜	4,336	24.9	4,141	23.1	▲ 4.5
果実	1,273	7.3	1,349	7.5	6.0
花き	563	3.2	600	3.4	6.6
工芸農作物	481	2.8	535	3.0	11.2
畜産計	8,156	46.8	8,751	48.9	7.3
うち 肉用牛	2,839	16.3	3,169	17.7	11.6
乳用牛	801	4.6	804	4.5	0.4
豚	1,941	11.1	2,008	11.2	3.5
鶏	2,526	14.5	2,719	15.2	7.6
加工農産物	144	0.8	172	1.0	19.4

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

過去50年の農業産出額の推移（九州）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

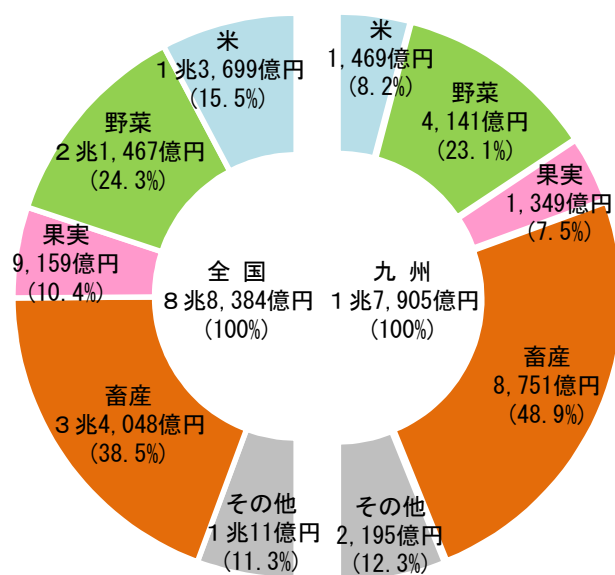
【畜産や野菜が盛ん】

部門別にみると、九州は全国に比べて米の割合が低く(全国15.5%、九州8.2%)、畜産の割合が高くなっています(全国38.5%、九州48.9%)。このほか、温暖な気候を活かし、野菜や果実の生産など多様な農業が展開されています。

50年前と比べると、九州では、昭和46(1971)年は29.3%だった畜産が令和3(2021)年には48.9%へと、野菜は12.0%から23.1%へと大幅に増加しました。一方、米は28.5%から8.2%へと大幅に減少し、時代とともに米を中心とした農業から野菜、畜産を中心とする農業へと推移しています。この推移は、全国と同じ傾向です。

その結果、農業産出額の全国上位10県に畜産や野菜の生産が盛んな鹿児島県、宮崎県、熊本県の3県がランクインしています。

農業産出額部門別割合（令和3(2021)年）



資料：農林水産省「令和3年生産農業所得統計」

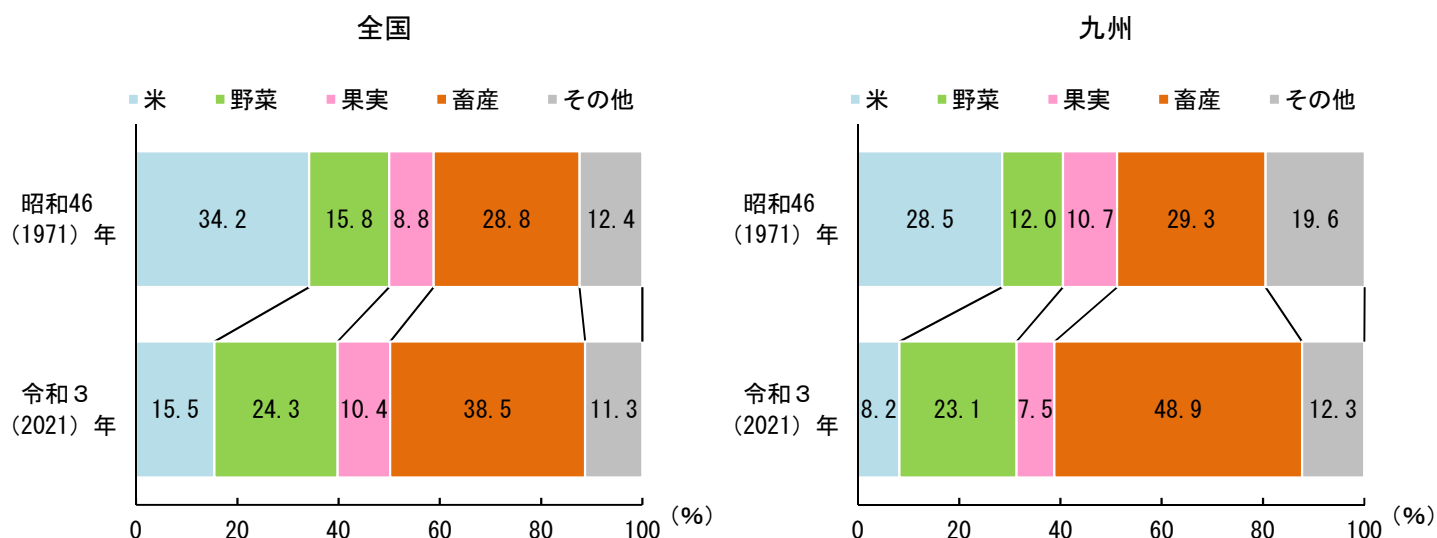
農業産出額全国上位10県（令和3(2021)年）

単位：億円

順位	都道府県名	農業産出額
1位	北海道	13,108
2位	鹿児島	4,997
3位	茨城	4,263
4位	宮崎	3,478
5位	熊本	3,477
6位	千葉	3,471
7位	青森	3,277
8位	愛知	2,922
9位	栃木	2,693
10位	岩手	2,651

資料：農林水産省「令和3年生産農業所得統計」

50年前の農業産出額の部門別構成割合との比較（全国・九州）



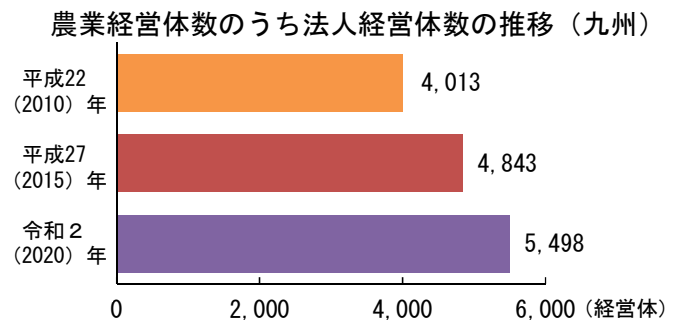
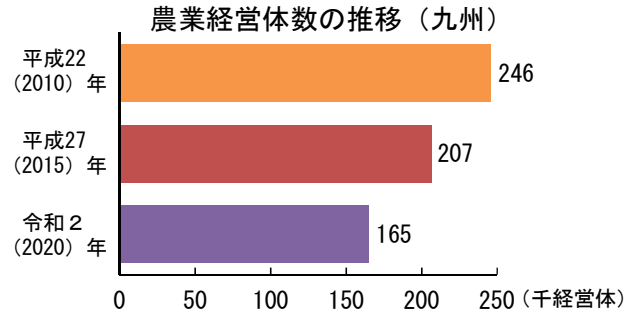
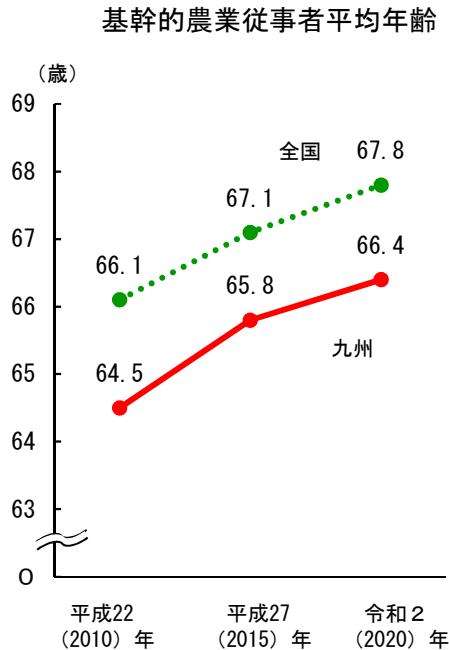
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

構造 — 農業経営体 —

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は165千経営体であり、10年前に比べて約3割減少しましたが、法人化している経営体は1.5千経営体(37%)増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

基幹的農業従事者平均年齢

平成22 (2010) 年は販売農家の数値、平成27 (2015) 年、令和2 (2020) 年は個人経営体の数値。

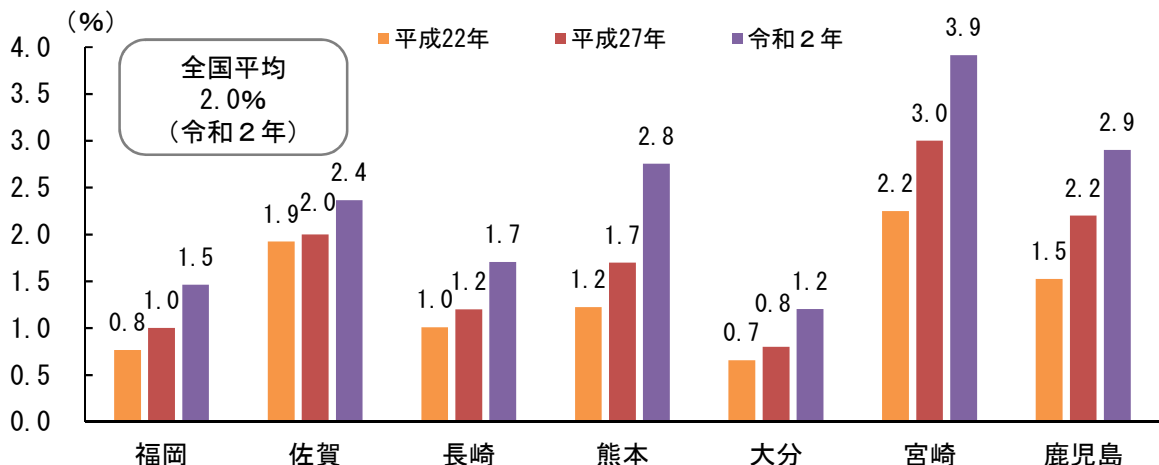
農業経営体

経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

法人経営体

農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」

構造 — 耕地面積 —

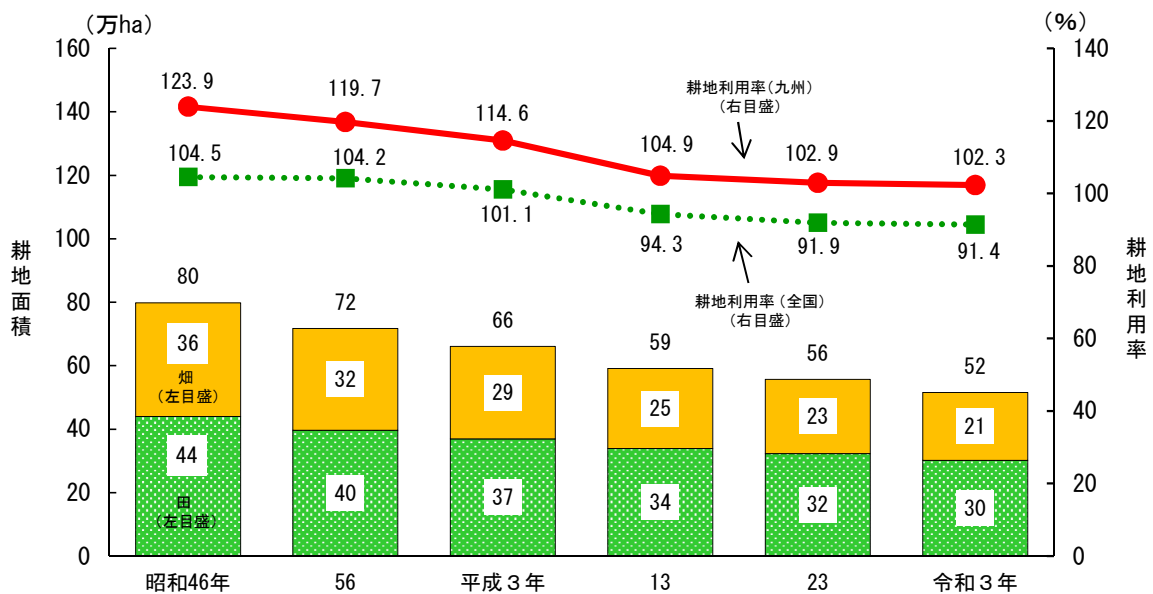
【耕地面積は51万5,200ha、耕地利用率は102.3%】

九州の耕地面積は、全国(435万ha)の約1割を占めています。

担い手の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等の理由により、平成3(1991)年からおよそ14万ha減少していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、ここ近年の減少幅は緩やかになってきています。

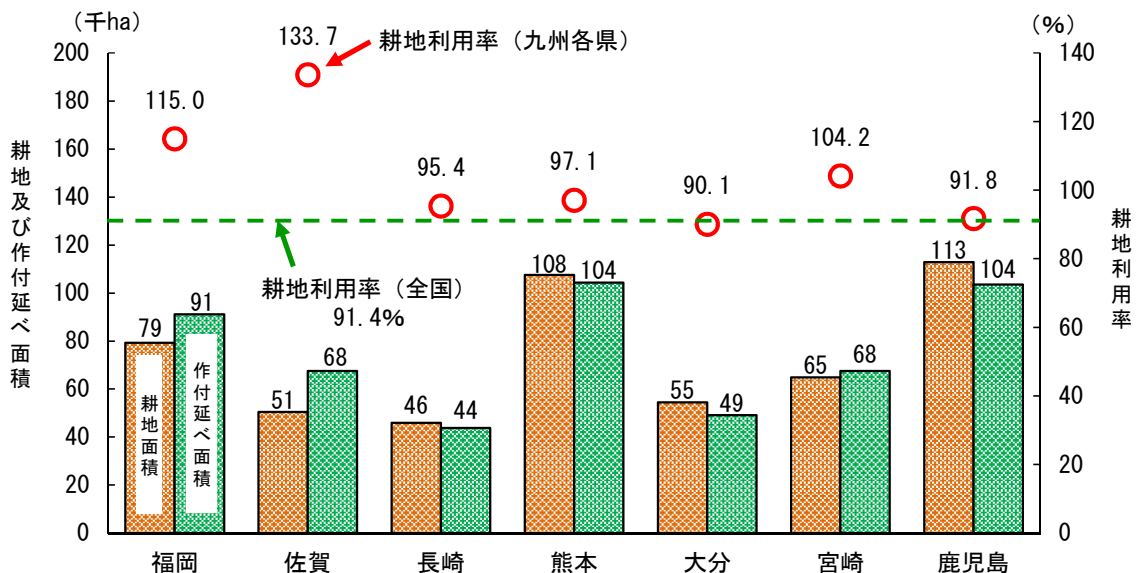
耕地利用率は全国平均91.4%を上回る102.3%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作(麦)が行われ、宮崎県では飼料作物の作付けが年間複数回行われることから100%を大きく上回っています。

耕地面積と耕地利用率の推移（九州）



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

耕地及び作付延べ面積と耕地利用率（令和3(2021)年）



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

生産 — 米 —

【水稻の収穫量(子実用*)は74万1,300 t (前年産に比べ10,700 t 減少)】

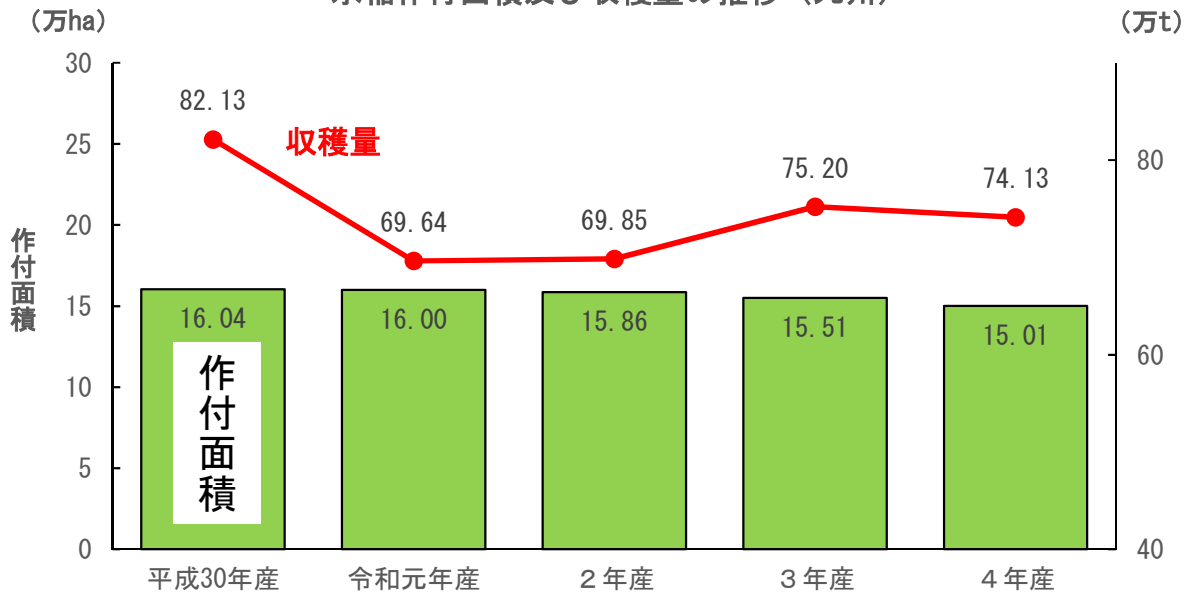
令和4(2022)年産水稻の九州の作付面積(子実用)は、15万100haで前年産に比べ5,000ha減少しました。そのため、収穫量(子実用)は、前年産から10,700 t 減少し74万1,300 t となりました。

また、9月の台風による倒伏等により白未熟粒等の品質の低下が散見されました。

「令和4年産米の食味ランキング((一財)日本穀物検定協会)では、九州で5銘柄が最高評価の「特A」を獲得しています。

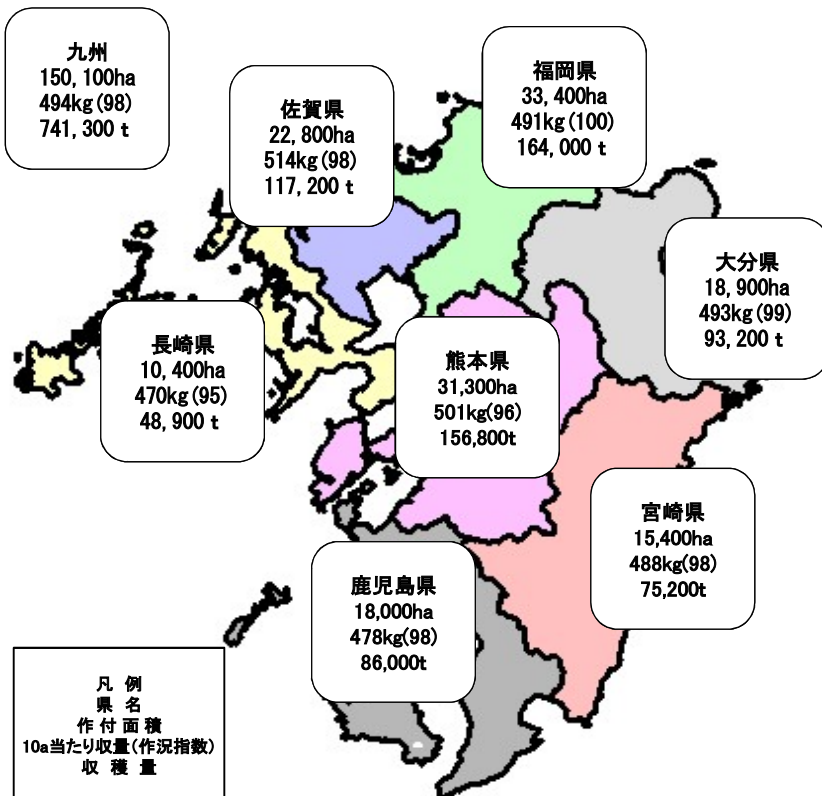
* 主に食用に供すること(子実生産)を目的とするものをいい、全体から「青刈り」を除いたものをいう。

水稻作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

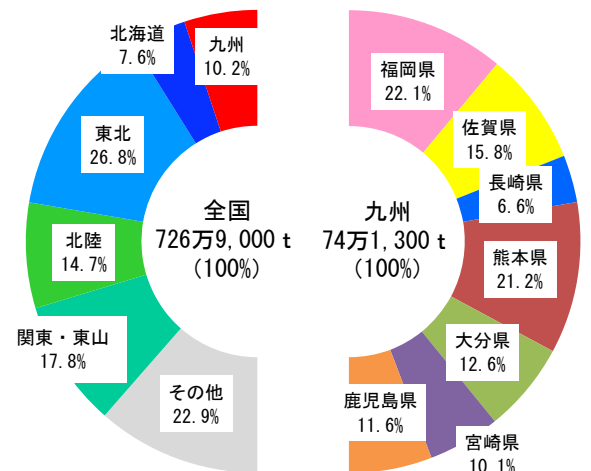
県別作付面積及び収穫量



凡例
県名
作付面積
10a当たり収量(作況指数)
収穫量

資料：九州農政局作成

令和4(2022)年産
収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

令和4(2022)年産食味試験結果
(九州特A一覧)

産地	品種名	地区
福岡県	元気つくし	
佐賀県	さがびより	
長崎県	にこまる	
大分県	ひとめぼれ	西部
	つや姫	

資料：(一財)日本穀物検定協会

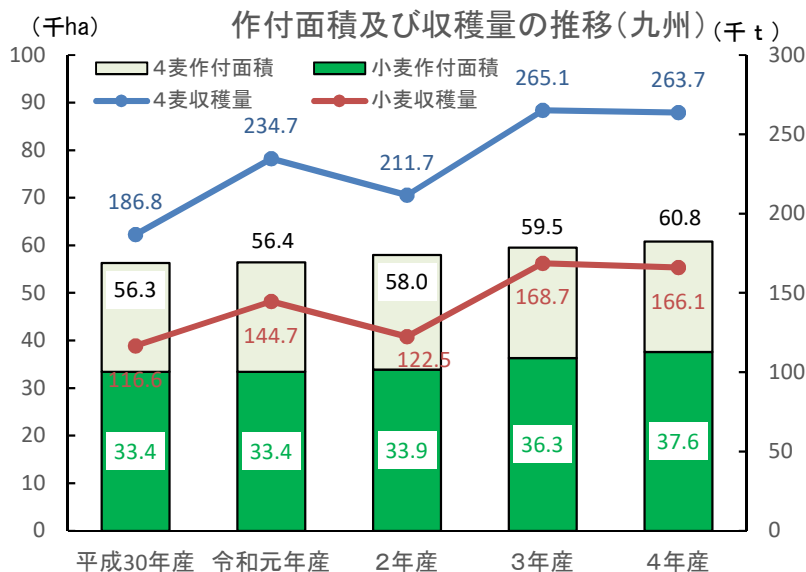
生産 — 麦類・大豆 —

【4麦の収穫量は、前年産に比べ1,400 t 減少】

令和4(2021)年産4麦計(子実用*) (小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦)の作付面積は6万800haで前年産に比べ1,300ha増加、収穫量は26万3,700 t で、前年産に比べ1,400 t 減少しました。九州の全国に占める割合は21.5%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

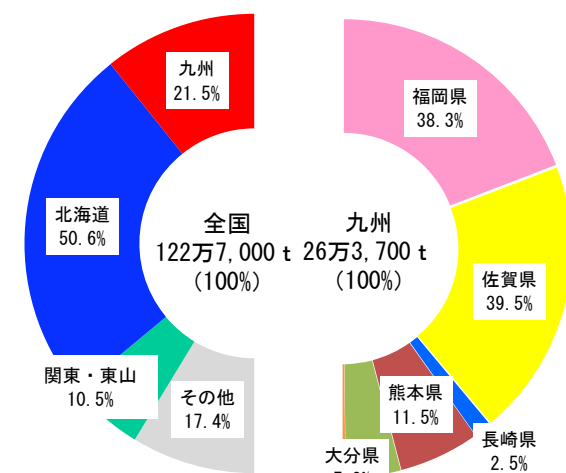
4麦の中で最も多い小麦の作付面積は、3万7,600haで前年産に比べ1,300ha増加し、収穫量は16万6,100 t で前年産に比べ2,600 t 減少しました。

* 主に食用にすること(子実生産)を目的とするものをいう。



資料：農林水産省「作物統計」

令和4(2022)年産 収穫量の全国及び九州内割合



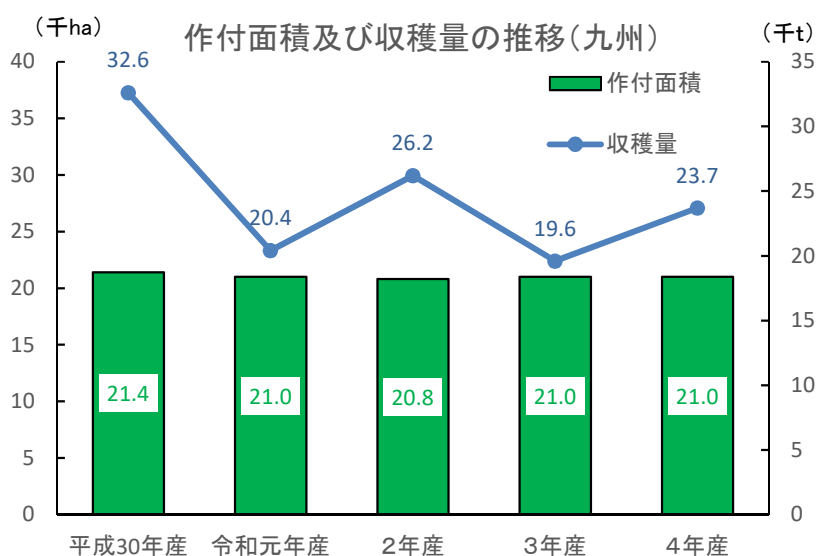
資料：農林水産省「作物統計」

【大豆の収穫量は、前年産に比べ4,100 t 増加】

令和4(2022)年産大豆(乾燥子実*)の作付面積は2万1,000haで前年から変わらず、収穫量は2万3,700 t で9月の台風により茎葉裂傷や成熟期の干ばつによる子実肥大不足等があったものの作柄が悪かった昨年よりは4,100 t 増加しました。

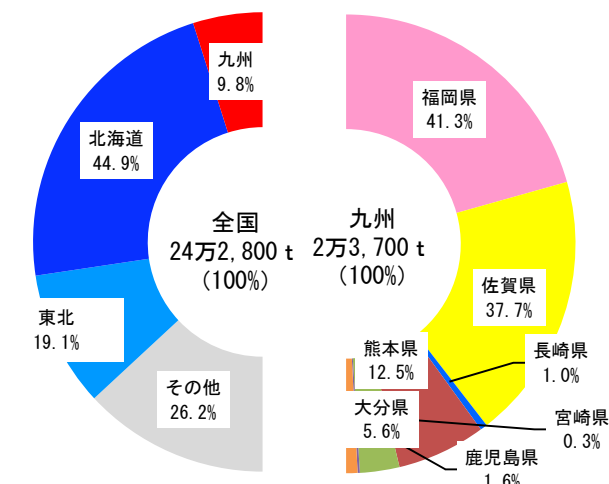
九州の全国に占める割合は約10%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

* 食用を目的に未成熟(完熟期以前)で収穫されるもの(えだまめ)を除いたものをいう。



資料：農林水産省「作物統計」

令和4(2022)年産 収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

生産 — 野菜 —

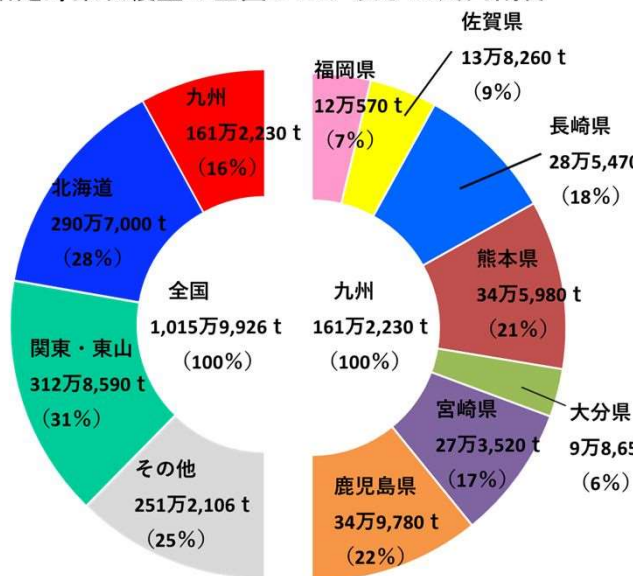
【九州は重要な野菜供給基地】

九州では、温暖な気候を生かした野菜の栽培が盛んです。令和3（2021）年産の九州における指定野菜（14品目*）の収穫量は、ピーマン、トマト等の施設野菜やさといも、だいこん等の露地野菜を中心に全国の15.9%、野菜の産出額では全国の19.3%を占めています。九州の産出額に占める野菜の割合は23.1%で、畜産の48.9%に次ぐ重要な品目となっています。

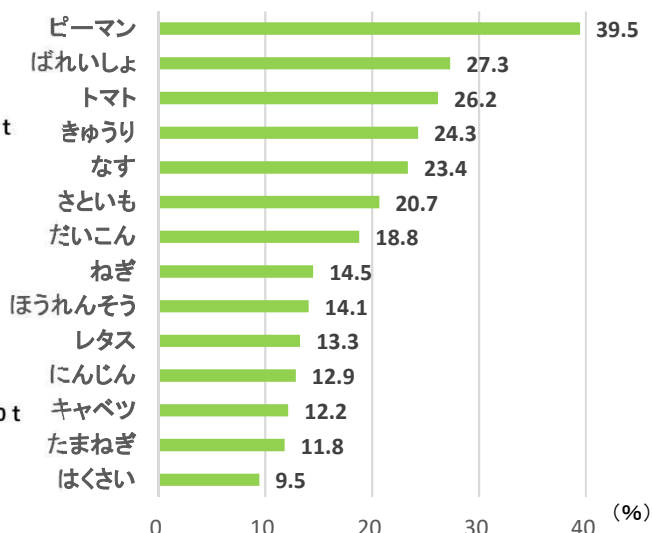
産出額で全国に占める割合が高い品目は、ピーマン（39.5%、宮崎県全国2位、鹿児島県全国3位）、ばれいしょ（27.3%、鹿児島県全国2位、長崎県全国3位）、トマト（26.2%、熊本県全国1位）、きゅうり（24.3%、宮崎県全国1位）の順となっています。指定野菜以外では、いちご（35.7%、福岡県全国2位、熊本県全国3位、長崎県全国4位）、かんしょ（24.2%、鹿児島県全国3位、宮崎県全国5位）、すいか（24.2%、熊本県全国1位）などです。

*指定野菜とは、野菜のうち特に消費量の多いもの（下右のグラフの14品目）

令和3（2021）年
指定野菜収穫量の全国シェア及び九州内割合



令和3（2021）年
九州の指定野菜産出額の全国シェア

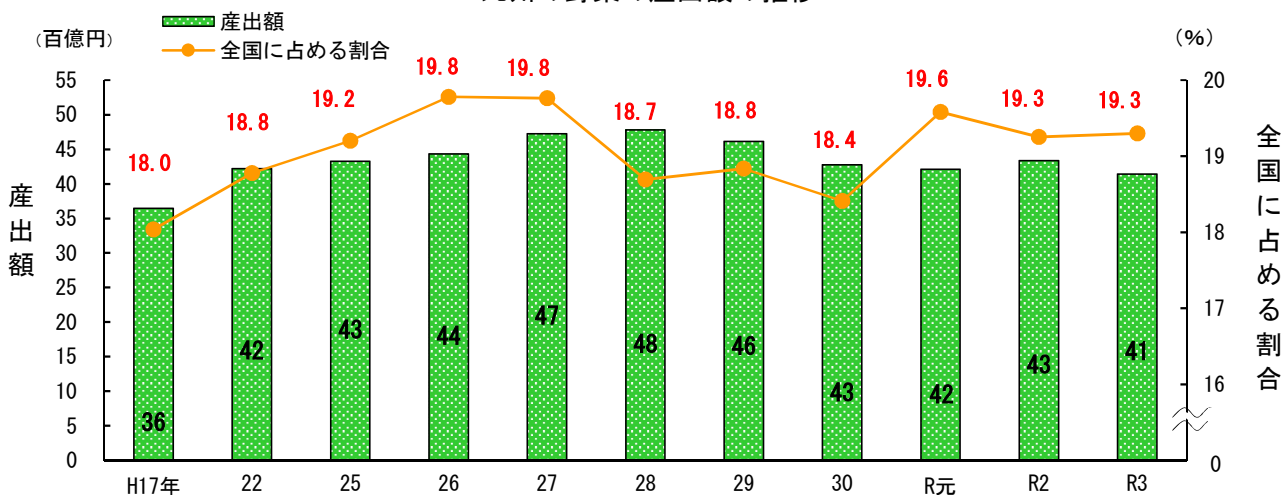


資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

注：野菜生産出荷統計結果を基に九州農政局において主産県を集計した値

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

九州の野菜の産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

生産 — 果樹 —

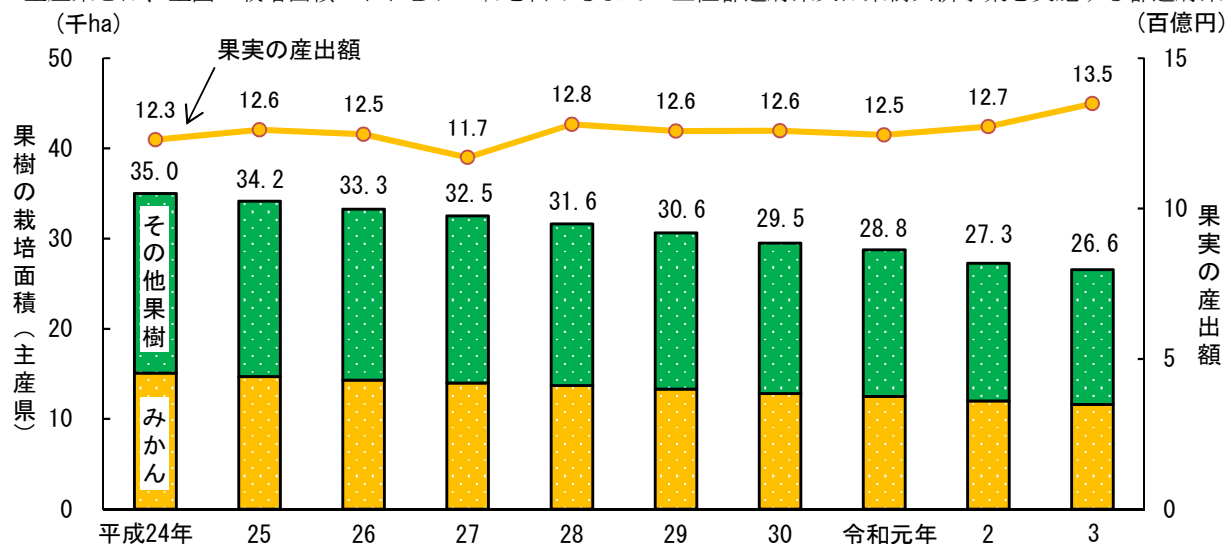
【栽培面積は減少傾向にあるものの産出額は微増】

九州における果樹の栽培面積（主産県*）は、高齢化や担い手不足による栽培農家数の減少に伴う緩やかな減少傾向にあり、令和3（2021）年は2万6,600haとなっています。一方、果実の産出額は、1,349億円とやや増加しました。この背景として高品質な果実が生産されていることや、需要の減少よりも生産量が減少していることが考えられます。

九州が全国の収穫量の約3割を占めるみかんでは、結果樹面積が1万1,100haで前年産に比べ400ha（3.5%）減少する一方、熊本県において8月の降雨により肥大が良かったこと等から、収穫量は24万600tで前年産に比べ1万5,900t（7.1%）増加しています。また、九州の収穫量のうち、熊本県、長崎県、佐賀県で8割近くを占めています。

その他果実の産出額は、ぶどう160億円（全国の8.4%、福岡県全国5位）、不知火（デコポン）119億円（同70.4%、熊本県同1位）、日本なし111億円（同16.0%、福岡県同7位、大分県同8位、熊本県同9位）、マンゴー46億円（同65.7%、宮崎県同1位、鹿児島県同3位）となっています。

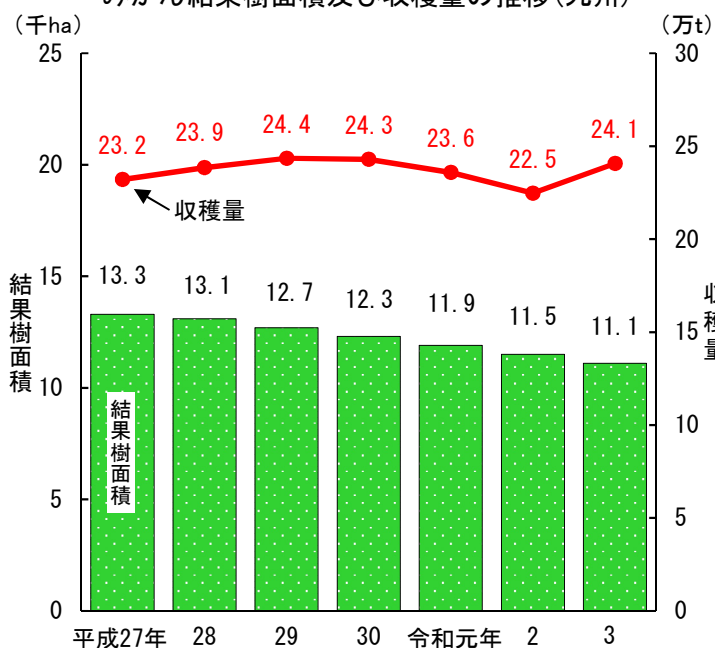
* 主産県とは、全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県



資料：農林水産省「生産農業所得統計」「耕地及び作付面積統計」

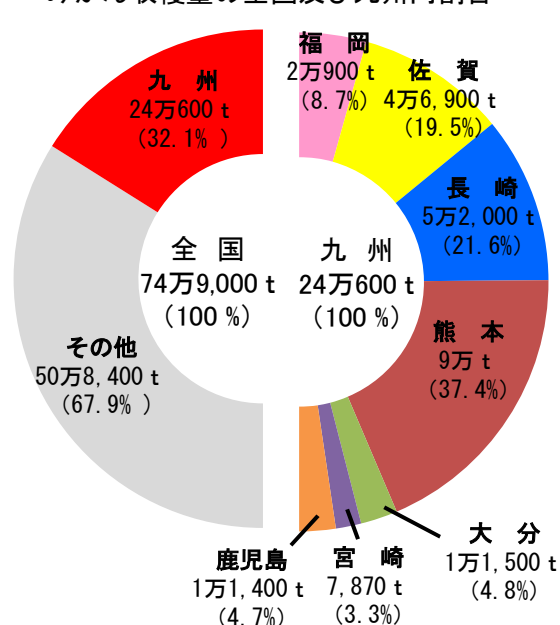
注：その他果樹は、その他のかんきつ類、くり、かき、日本なし、ぶどう、うめ、びわ、キウイフルーツ、すもも

みかん結果樹面積及び収穫量の推移（九州）



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

令和3年産 みかん収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

注：全国地域別は、農政局毎の割合を表示しています。

生産 — 花き —

【産出額は回復傾向、栽培面積は漸減傾向】

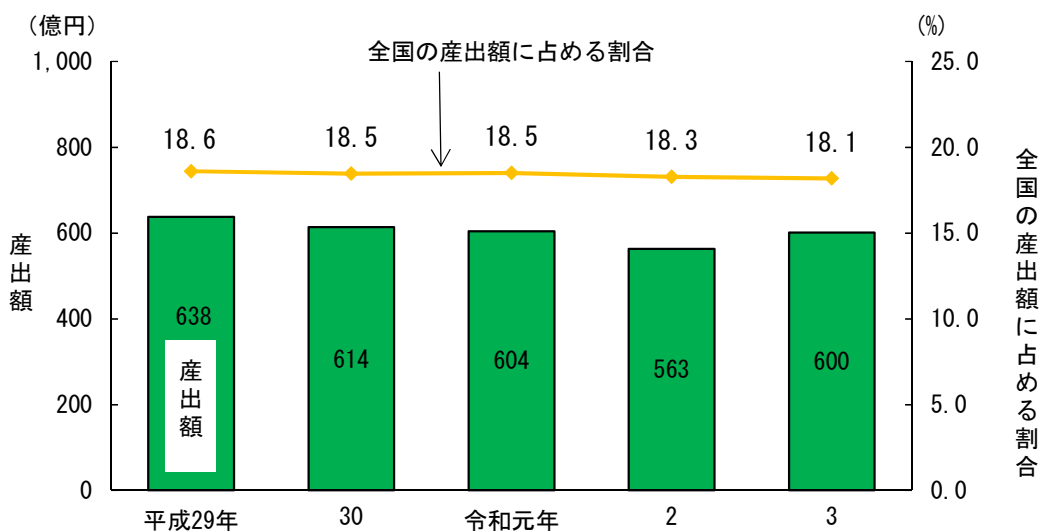
九州における令和3（2021）年の花きの産出額は、全国の18.1%を占める600億円で、前年に比べ産出額が回復しました。これは、令和2（2020）年には、新型コロナウイルス感染症の影響により、冠婚葬祭等のイベント自粛から業務用需要が減少していましたが、徐々にイベント需要等が回復していったことや、家庭用需要（ホームユース）の増加等が影響したものと考えられます。

一方、令和3（2021）年産切り花の作付面積は2,340haで、前年に比べ29ha（1.3%）減少しています。生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることを背景に、近年漸減傾向で推移しています。

出荷量は6億5,250万本で、前年に比べ600万本（0.9%）減少しているものの、そのシェアは全国の20.1%を占めています。

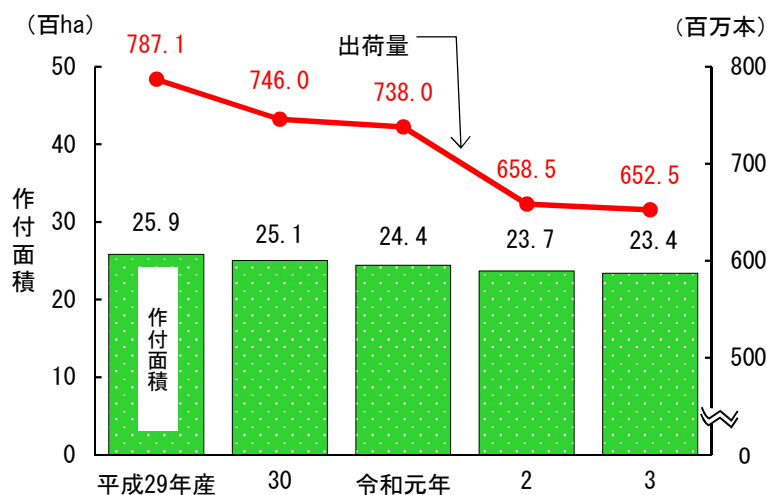
県別の出荷量をみると、洋ランやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、きくやゆり等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の45.8%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移



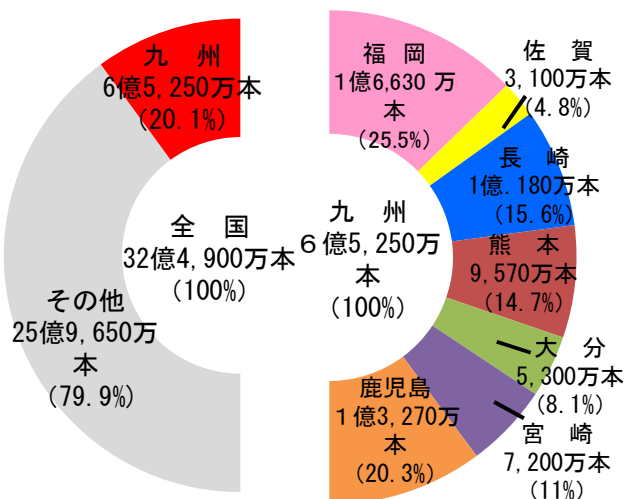
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き（切り花類）作付面積及び出荷量の推移（九州）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

令和3（2020）年産花き（切り花類）出荷量の全国及び九州内割合



生産 — 地域特産作物 —

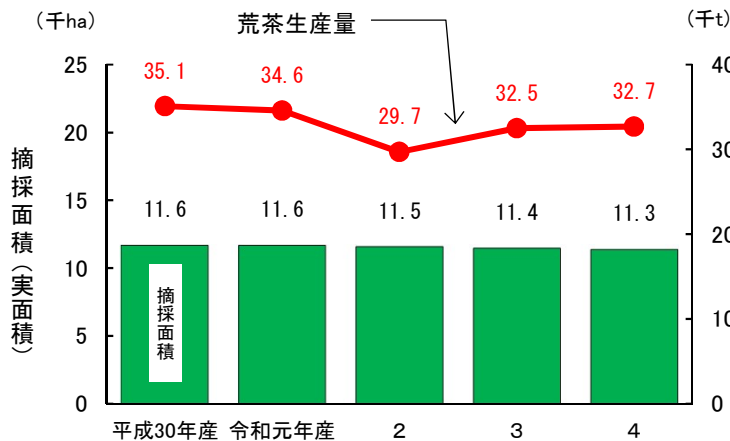
【茶：九州（主産県）の荒茶生産量は、全国（主産県）の約5割を占める】

九州（主産県^{*}）の令和4（2022）年産茶の摘採面積は1万1,300haで前年産並みとなっており、荒茶生産量も3万2,700tで前年産並みとなっています。

九州（主産県）の荒茶生産量は全国（主産県）の46.8%を占めており、その中でも鹿児島県は、九州全体の8割以上を占めるなど、全国第2位の産地が形成されています。その他、宮崎県、福岡県でも、煎茶やかぶせ茶等の生産、加工が盛んです。

^{*} 九州（主産県）は、福岡、熊本、宮崎、鹿児島の合計値

茶摘採面積及び荒茶生産量の推移（九州（主産県））

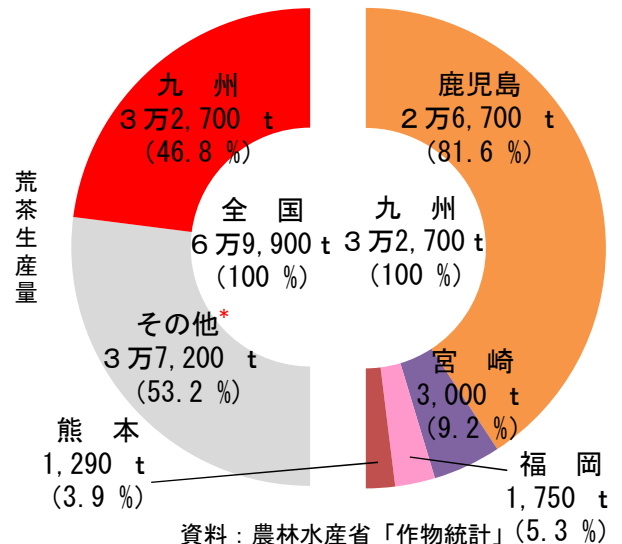


資料：農林水産省「作物統計」

注1：四捨五入（5桁（10,000）の場合下2桁、4桁（1,000）の場合下1桁）により合計値と内訳の計が一致しない。

注2：令和3年産からは概数値を使用。

令和4（2022）年産
荒茶生産量の全国（主産県）及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」（5.3 %）

^{*} その他は、静岡、三重、京都、埼玉の合計値

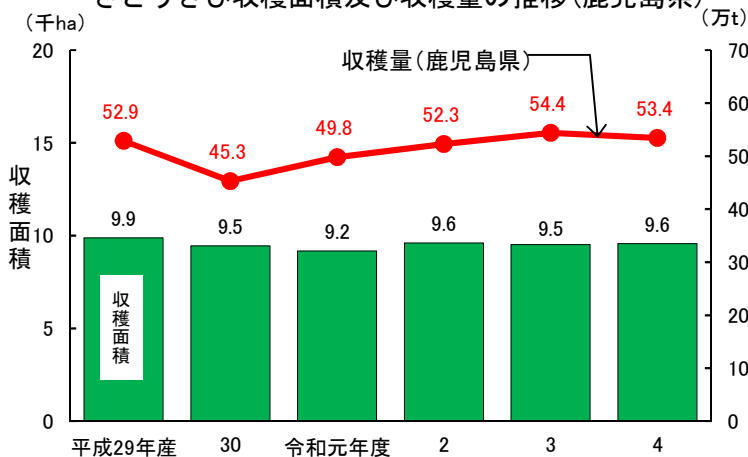
【さとうきび：鹿児島県南西諸島の基幹的作物】

さとうきびは、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の基幹作物として栽培されています。

近年、鹿児島県のさとうきび収穫面積は横ばい傾向で推移しており、令和4（2022）年産の収穫面積は9,570haとなっています。

一方、収穫量は台風等による影響も少なく、おおむね順調な生育となったことから、前年産並みの53万4,100tとなっています。

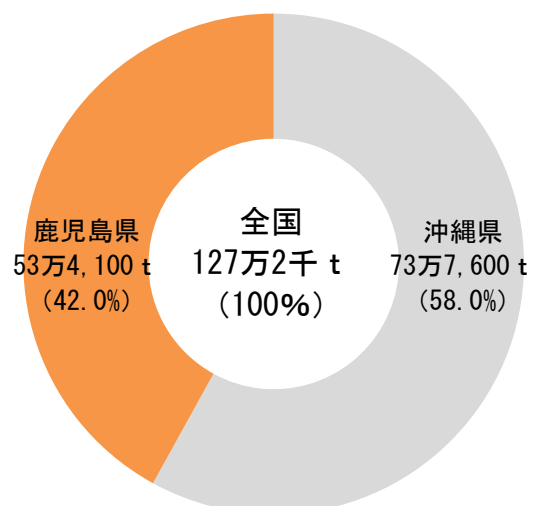
さとうきび収穫面積及び収穫量の推移（鹿児島県）



資料：農林水産省「作物統計」

注：四捨五入（7桁（1,000,000）の場合下3桁）により合計値と内訳の計が一致しない。

収穫量の全国シェア（令和4（2022）年）



資料：農林水産省「作物統計」

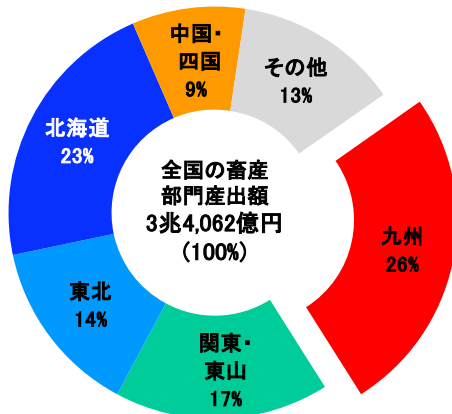
生産 — 畜産 —

【日本最大の畜産地帯】

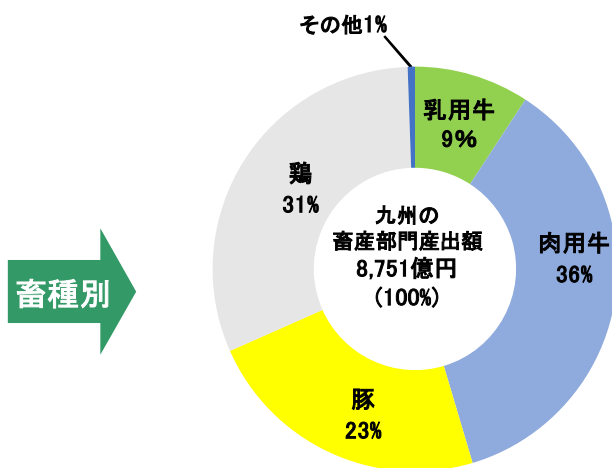
九州の畜産部門の農業産出額は、全国の約26%を占めており、畜種別では、高い順に肉用牛、鶏（鶏卵及びブロイラー）、豚、乳用牛となっています。

また、九州は、肉用牛、豚及びブロイラーの畜種別農業産出額の割合は、それぞれ全国の約4割、約3割、約5割を占め、農業地域別で全国第1位の生産地域であり、我が国最大の食肉供給基地となっています。

農業産出額の畜産部門の全国割合
(令和3(2021)年)



九州の畜産部門産出額の畜種別割合
(令和3(2021)年)



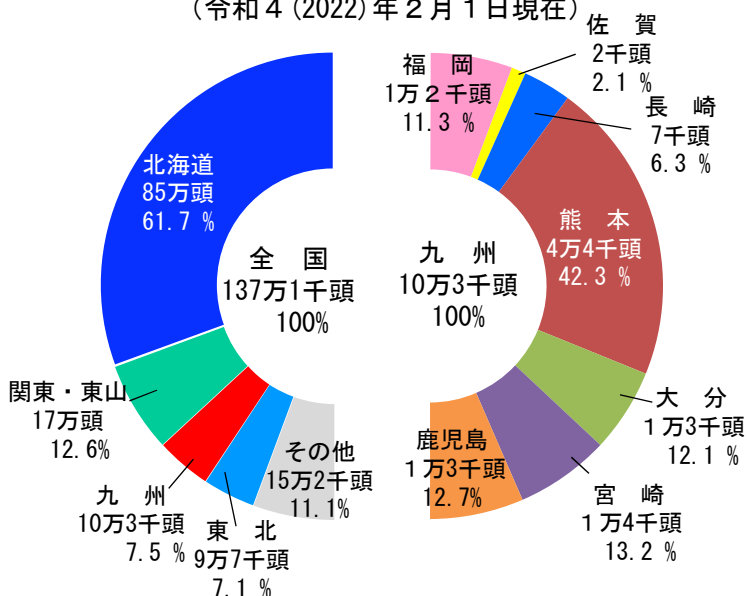
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります(以下同じ)。

【乳用牛】

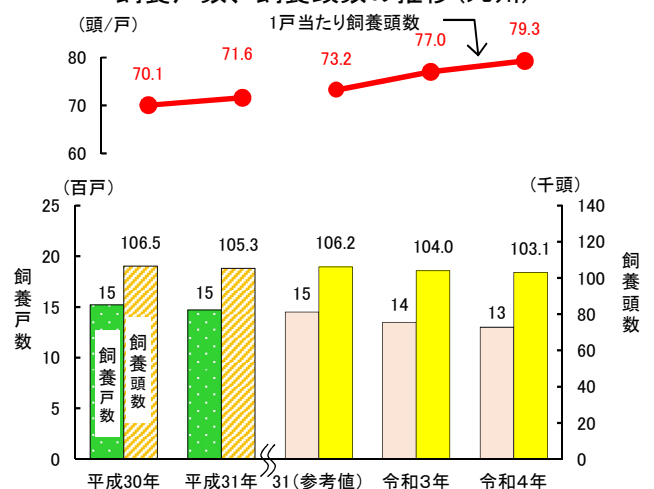
乳用牛の飼養頭数は近年減少傾向で推移しており、令和4(2022)年は前年に比べ、900頭減少し10万3,100頭となりました。県別の飼養頭数では熊本県が全国第3位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合
(令和4(2022)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)



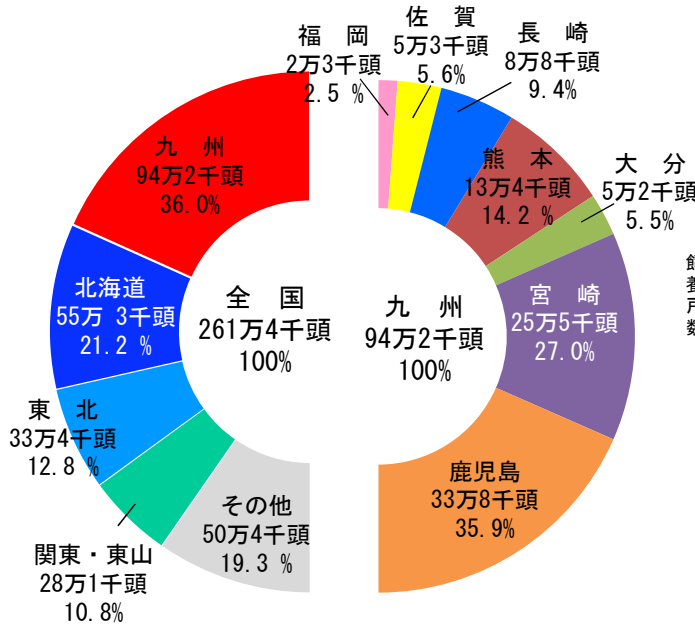
資料：農林水産省「畜産統計」

注：令和2年から統計手法を変更したため、平成31(2019)年以前のデータとは接続しない。
また、令和2(2020)年の統計手法を用いて集計した平成31(2019)年の数値を参考値として記載しています。

【肉用牛】

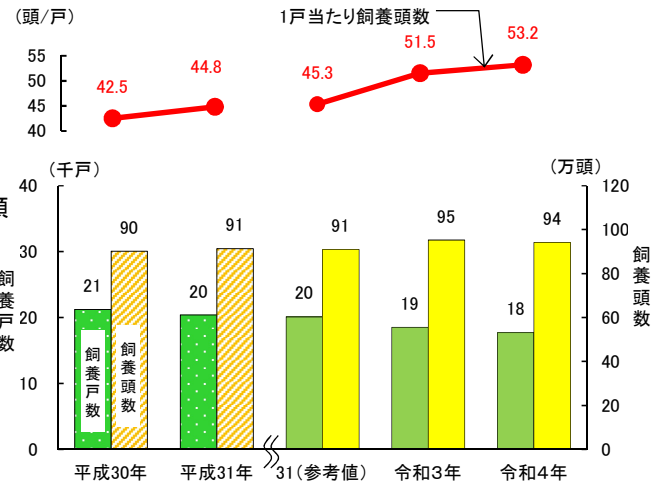
肉用牛の飼養頭数は、各般の生産基盤強化対策の実施により、平成29(2017)年から令和3(2021)年まで5年連続で増加しましたが、令和4(2022)年は前年に比べ10,800頭減少し94万1,700頭となりました。九州は全国の飼養頭数の3分の1強を占めており、県別の飼養頭数では鹿児島県が全国第2位、宮崎県が同3位、熊本県が同4位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合
(令和4(2022)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)



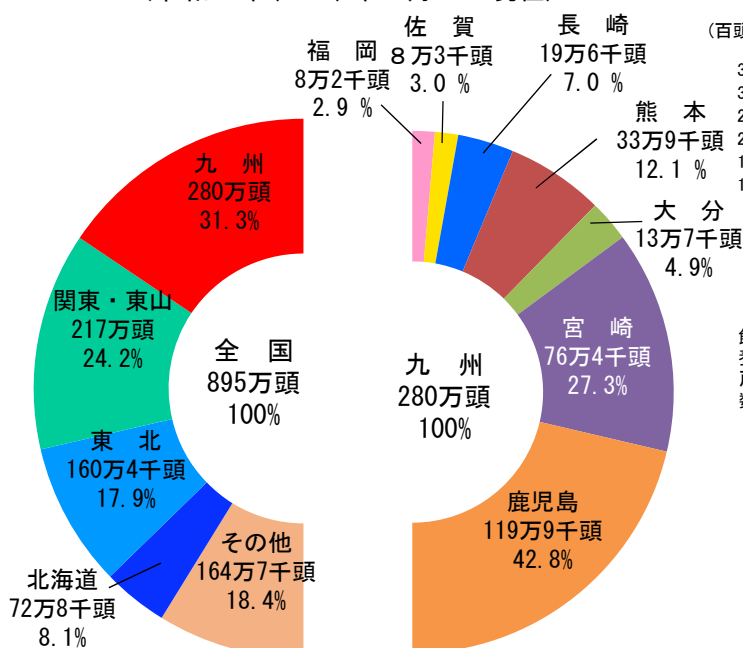
資料：農林水産省「畜産統計」

注：令和2年から統計手法を変更したため、平成31(2019)年以前のデータとは接続しない。
また、令和2(2020)年の統計手法を用いて集計した平成31(2019)年の数値を参考値として記載しています。

【豚】

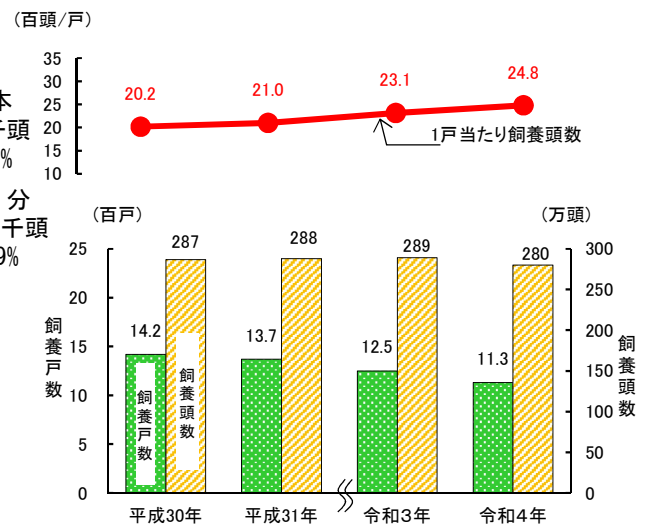
飼養頭数は平成30(2018)年以降微増傾向で推移していましたが、令和4(2022)年は前年に比べ9万2,000頭減少し280万頭となりました。県別の飼養頭数では鹿児島県が全国第1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合
(令和4年(2022)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)

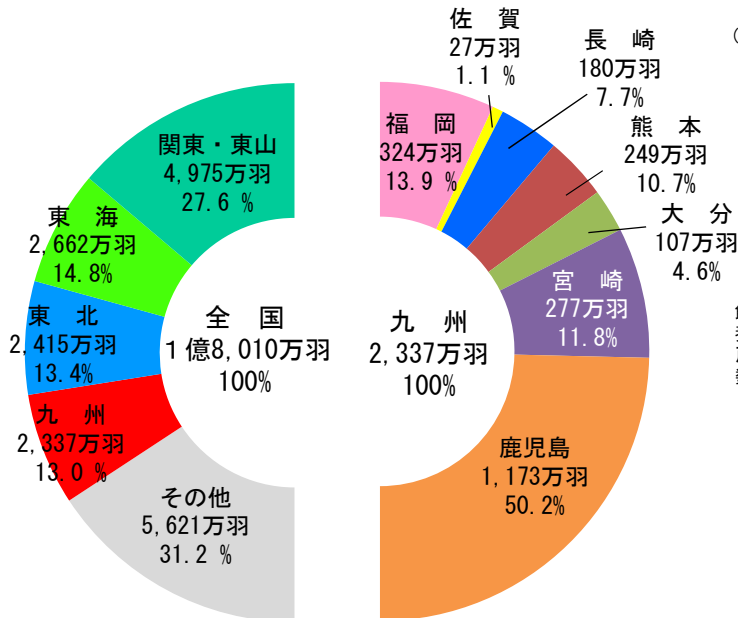


注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「豚」の調査休止。

【採卵鶏】

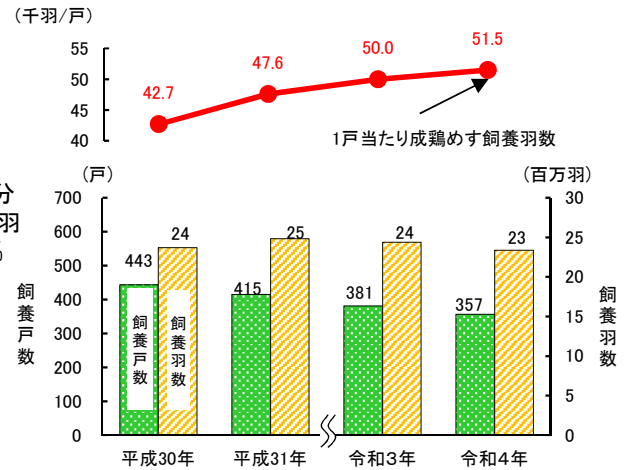
近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、令和4(2022)年は前年に比べ101万1,000羽減少し2,336万8,000羽となりました。県別の飼養羽数では鹿児島県が全国第3位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合
(令和4年(2022)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)

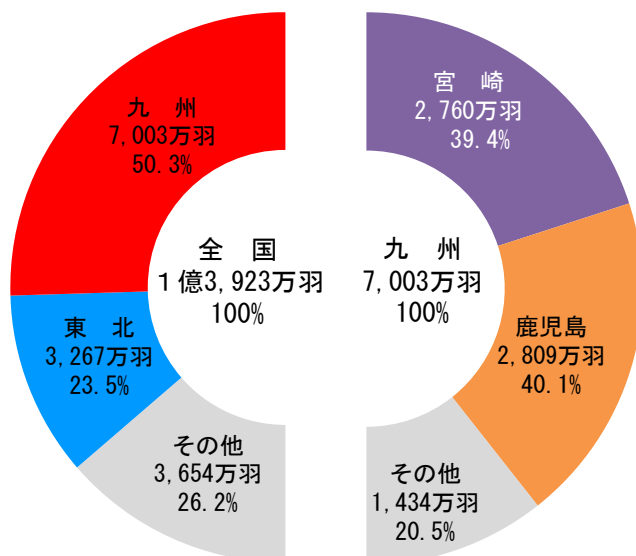


注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「採卵鶏」の調査休止。

【ブロイラー】

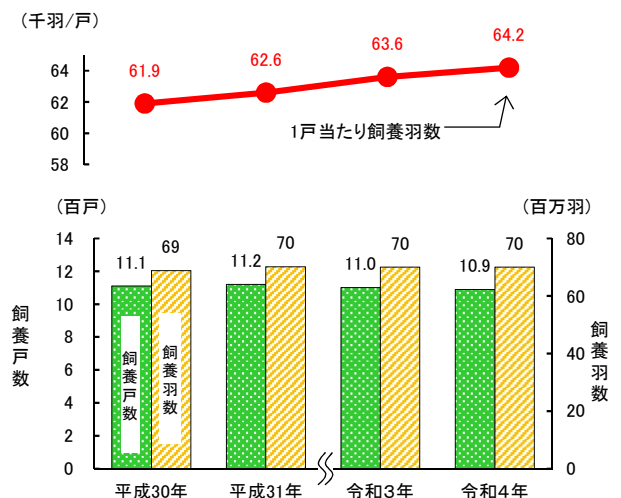
近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、令和4(2022)年は前年に比べ4万6,000羽増加し7,003万羽となりました。県別の飼養羽数では、鹿児島県が全国1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合
(令和4年(2022)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「ブロイラー」の調査休止。